

2011 分子システム 科学国際シンポジウム

— 若手研究者のためのグローバル COE シンポジウム —

世界から多くの若手
研究者が集い発表



九州大学グローバル
COE(G-COE)
「未来分子システム科
学」(平成19-23年度、
拠点リーダー 君塚

信夫 工学研究院応用化学部門 主幹
教授)主催の国際シンポジウムを201
1年5月9日(月)ー11日(水)、福岡市
海の中道レイガングズで開催しました。

今回のシンポジウムには、国内から
66名、海外から30名の計96名が参加し
ました。そのうち、若手研究者が参加
者の70%強を占め、九州大学28名、韓国・
延世大学20名、東北大学を含む8つの
G-COE拠点から22名の総勢70名の
若手研究者が参加し、発表を行いました。
**国境を越えたグローバルな
ネットワークを構築**

シンポジウムの初日は新進気鋭の招
待講演者らによる模範講演(豪州、台湾
より2名の招待講演、延世大学から6名、
九州大学から4名の講演)、二日目、三
日目は若手24名の口頭発表、46名のポ
スター発表を行いました。口頭発表や
ポスター発表ならびにその質疑応答は

すべて英語で実施しました。特に九州

大学の博士課程学生の発表はいずれも
極めて高水準であり、当拠点の教育研
究活動の集大成となりました。また、
初の試みとして、初日と二日目の晩には、
若手参加者を無作為に15組に分けてイ
ブニングディスカッションを実施し、
研究や将来の夢を深夜まで語り合いました。

今回、海外からは韓国・延世大学が、
国内からは化学系G-COEを代表す
る多くの学生を含む若手研究者が参加
し、将来彼らが研究者として自立する
上で必要不可欠である、大学の枠組み
や国境を越えたグローバルなネット
ワークが構築されました。参加者のア
ンケートによると、このシンポジウム
によって、若手研究者のうち、6割が
ワールドワイドのそして9割が日本国
内のネットワークが形成できたと回答
しました。(図1、2参照)

このような若手研究者のネットワー
ク形成につながる環境づくりは、従来
の国際シンポジウム等では十分に行わ

れておらず、シン
ポジウムは当初の
目的を達成できた
といえるでしょう。
また、当拠点にお
いて、東日本大震
災後、初の国際シ
ンポジウムとなり
ましたが、若手研
究者達の「日本の
将来、世界の将来
は自分達で切り拓
く」という強い意
志を感じることが
でき、若手研究者
にとっても参加者全員にとっても大変
有意義なシンポジウムとなり、大成功
裡に閉会しました。

最後に九

州大学の学
生のイブニ
ングディス
カッション
に対するコ
メントを記
します。

I really enjoyed this
symposium. Through the free
discussion, we could share
our ideas, feelings and future
plans. Also we could learn
something about each
other's country and culture.

(「未来分子システム科学」
グローバルCOE事務室広報担当)

